



めぐり

# 民間仏

# 伊豆



東洋と西洋の美の出あい

上原美術館  
Uehara Museum of Art

開館時間 午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで)  
入館料 大人1,000円/学生500円/高校生以下無料  
\*仏教館・近代館の共通券です \*団体10名以上は10%割引

2025年 会期中無休

4/26

|土|

9/23

|火・祝|

1 十一面観音像(江戸時代) 伊東市・龍溪院  
2 薬師如来像(江戸時代) 南伊豆町・中木薬師堂  
3 茶祝尼天像(室町～江戸時代) 南伊豆町・正眼寺

uehara collection

ピカソ15歳



パブロ・ピカソ《科学と慈愛》1897年  
© 2025 - Succession Pablo Picasso - BCF (JAPAN)



ポール・シニャック《アニエール、洗濯船》1882年

シニャック18歳

2025 会期中無休  
4/26 |土|

9/23 |火・祝|

開館時間 午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで)  
入館料 大人1,000円/学生500円/高校生以下無料  
\*仏教館・近代館の共通券です \*団体10名以上は10%割引

東洋と西洋の美の出あい

上原美術館  
Uehara Museum of Art

# であう、はじまる。

— 画家たちの初期作品

# であう、はじまる

## — 画家たちの初期作品

今では巨匠と呼ばれる画家たちにも、そのはじまりがあります。若く名もなき画家はさまざまな人や芸術と出会い、心を揺さぶられ、そして自らの表現の道を歩みはじめます。本展では画家たちの若き感性があふれる初期作品をご紹介します、その芸術の魅力と本質に迫ります。

《科学と慈愛》はピカソ15歳のときの作品です。幼少の頃より美術教師の父に絵の手ほどきを受けたピカソは、官展のために大作の準備を重ねます。その最終準備作がこの油彩画です。ピカソはこの絵を縦2メートルの大作に仕上げ、マラガの展覧会で金賞を受賞。そしてピカソの画家としての人生がはじまります。

《アニエール、洗濯船》はシニャック18歳の作品。自身の作品帖には最初の番号が振られています。シニャックは16歳の頃、モネに憧れて画家を志しました。セーヌ川の輝くみなもは、モネを思わせる筆触分割で描かれており、理論的な点描主義に至っていない、若き画家の瑞々しい感性に溢れています。

そのほか、駆け出しのゴッホが憧れのミレーの小さな版画を懸命に模写した《鎌で刈る人(ミレーによる)》、株式仲買人の仕事をしていたゴーギャンが日曜画家として描いた最初期の油彩画《森の中、サン=クルー》、自らの芸術を模索する若き梅原龍三郎が師ルノワールに見せ助言を受けた《モレー風景》、西洋美術研究のため大学院を中退してスペインに渡った須田国太郎がその地の風景を描いた《山の斜面》など、画家たちの初期作品をご紹介します。

上原コレクションには、画家たちのはじまりの作品が多くあります。そこには画家の人間性を見つめるコレクターの小さくやさしい「まなざし」にあふれています。画家たちの初期作品を通じて、上原コレクションの魅力をどうぞお楽しみください。



ポール・ゴーギャン《森の中、サン=クルー》1873年



梅原龍三郎《モレー風景》1911(明治44)年



フィンセント・ファン・ゴッホ  
《鎌で刈る人(ミレーによる)》1880年頃



須田国太郎《山の斜面》1920(大正9)年

### 学芸員による作品解説

日時：会期中の第3土曜日  
10時～(近代館) / 11時～(仏教館)  
※所要各50分

会場：上原美術館展示室

参加方法：当日、展示室にお集まりください

※予約不要・ご参加には入館券が必要です

# 伊豆

# 民間仏

## めぐり



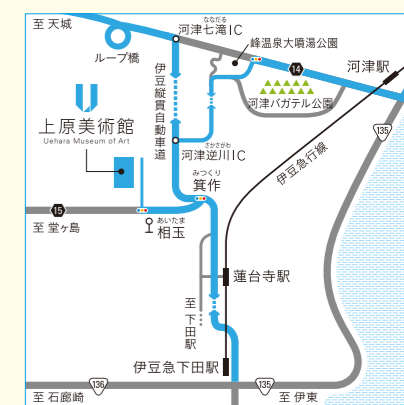
観音天像(江戸時代) 三島市・長福寺



観音菩薩像(文政元年1818) 松本雲松作、河津町・真乗寺



観音菩薩像(江戸時代 東伊豆町・北川地区)



- お車で 新東名高速道路 長泉沼津ICより下田方面へ 1時間30分
- 鉄道・バスで 東京駅より特急踊り子号 2時間40分 伊豆急下田駅下車 同駅より堂ヶ島方面行バス 20分 相玉下車 徒歩15分

東洋と西洋の美の出会い

上原美術館  
Uehara Museum of Art

〒413-0715 静岡県下田市宇土金341  
Tel. 0558-28-1228 www.uehara-museum.or.jp



間蔵王像(江戸時代) 石田半兵衛作、松崎町・指川地区



弘法大師像(江戸時代) 南伊豆町・中木薬師堂

六世紀に日本に伝来した仏教は、都に仏教文化の大輪の花を咲かせ、やがて各地に伝播しました。古代中世の造像を担ったのは、主に皇族や貴族、地方豪族、武士たちで、この時代、仏教美術の名品が数多く生み出されました。

室町後期から戦国時代になると、仏教が地方の民衆の間にも定着します。やがて江戸時代に入ると、全国津々浦々で民衆が仏像造像を発願し、時には様々な立場や階層の人々が自ら造像するようになりました。こうして生まれた仏像の数は、前代を圧倒します。量で見ると、江戸時代は仏像造像の黄金時代なのです。

江戸時代の伊豆の人々は、江戸に住む仏師たちに造像を依頼したり、彼らが制作した仏像を購入して寺院やお堂に迎えることが多かったようです。しかしその一方で、各地の寺院の片隅に目を凝らし、地域のお堂を訪ねると、伊豆に生きた作者による仏像も伝えられています。これらの像は職業仏師が作る像と比較すると、素朴な造形の像が多いのですが、不思議な魅力を宿しています。

本展では、伊豆で生まれた、造形的には拙いかもしれませんが、愛らしく、愉快で親しみやすい魅力的な仏像を、伊豆半島の全域から集めて展示いたします。